わが街わが故郷

トックベアリング㈱と板橋区

トックベアリング株式会社と本社が所在する東京都板橋区について紹介します。

1．会社の紹介

【所在地】

本社・東京工場

〒174－8501

東京都板橋区小豆沢２－21－４

電話番号　03-3969-1531（代表）

http://www.tok-bearing.co.jp

【沿革】

当社は初代社長の吉川時蔵が大正14年４月に向島区吾妻町（現在の墨田区立花）で創業した「吉川製作所」が前身で、昭和13年６月に吾妻町から板橋へ移転し、同年12月に株式会社に改組したことに始まります。

戦時中の昭和19年に軍部より帝国航空軸受株式会社に改名を迫られ、軍部独裁の時代でもあり余儀なく応じましたが、戦後の昭和21年1月に吉川産業株式会社と改称し、昭和47年６月に現社名のトックベアリング株式会社となりました。

【製造品目】

当社が開発した「プラスチックベアリング」、一方向にしか廻らない「ワンウエイクラッチ」、それから「ダンパー」・「トルクリミッター」等を「TOK」の商標で量産しています。

【御視察行幸】

平成14年５月、天皇陛下が当社の東京工場を御視察されました。ダンパーやワンウエイクラッチの組立現場および実機模型の作動機能に興味を持たれたご様子で、工場見学後の懇談時において随行諸氏や当社の幹部および若手社員に励ましの御言葉をかけて頂きました。

2．板橋区の紹介

【区名の由来】

「板橋」の地名発祥の由来については、はっきりした資料はありませんが、おそらく石神井川に架けられた「板の橋」が、いつしか口から口へと語り伝えられたものと思われます。

「源平盛衰記」や「義経記」によれば、頼朝や義経が「板橋」の地に陣をとったことが記されていますから、今から８百年以上前には「板橋」の地名がすでに使われていたようです。

江戸時代になると中山道の宿場名に使用され、江戸四宿（内藤新宿、品川宿、千住宿、板橋宿）の一つとして世に知られ、明治以降は町名として採用され、昭和７年の区誕生のとき区名となりました。

【歴史】

・古代

武蔵野台地に人類の生活が始まったのは約３

万年前だといわれています。この台地の東北端に位置する板橋地方では、石神井川流域や荒川谷の支谷に古代の遺跡が点在しています。

なかでも茂呂遺跡は約1万7千年前にさかのぼるといわれ、旧石器時代を代表する遺跡のひとつです。

・中世

鎌倉時代から室町時代にかけて、豊島氏がこの地方の主権者として威を振るっていましたが、文明9年(1477年)に豊島氏が長尾景春の反乱に加担したため、上杉家の家臣太田道灌によって居城の石神井城・赤塚城を攻め落とされました。

豊島氏が滅びると千葉氏が太田道灌の支援のもと赤塚城に入り勢力を伸ばしましたが、管領上杉家が勢力を失った後は、北条氏に従ってその勢力を持続させたものの長くは続かず、天正18年(1590年)小田原城が落城するにおよんで千葉氏も滅び、赤塚城は廃城となりました。

・江戸時代

徳川氏が覇権を握った後、江戸幕府は家康の命により街道を整備し、一里塚や宿場を設けて交通の便を図り、これにより板橋宿が設けられました。宿場は中山道筋の大名や一般旅客のおとすお金で潤いました。

また、奥地の農業地帯の志村・上板橋・徳丸・赤塚方面は、江戸へ積み出す大根景気で全区域が経済的に恵まれました。なお、板橋には中山道の平尾追分から分かれた川越街道も走り、関東の穀倉地帯である川越と江戸とを結ぶ重要な糧道となっておりました。

・明治から昭和へ

維新後、江戸は東京となり、板橋は御府外のため武蔵県所属となりましたが、翌年(1869年)大宮県へ、さらに浦和県へと転属されました。明治4年(1871年)になって東京府の区域拡張が行われ、初めて東京府へ編入になりました。

板橋の工業の素地を作ったものは、明治9年(1876年)板橋六丁目から北区へまたがって建設された陸軍造兵廠、板橋火薬製造所等の軍関係の工場でした。当時の板橋地方は、宿場をはずれれば山林と広野の連続で、敷地入手が安易なことと製品輸送に舟を利用しうる利便性から、危険物を取扱う軍需工場や爆発性のある化学品の製造工場設置に、好適の条件が備わっておりました。こうして板橋は、第二次世界大戦中まで一大軍事工場地帯となりました。

・戦後の復興

戦前より軍需中心であった板橋区の工業は、終戦を境として一斉に火が消えましたが、戦後は精密機械を中心とする平和産業に変容し、目覚しい復興はまたたく間に城北地域随一の工業地帯となって飛躍し続け、現在では3千3百以上の製造業事業所数を数え、製造品の出荷額は年間7千4百億円を超えております。

また、昭和30年代まで東京の穀倉地帯と称された「赤塚・徳丸たんぼ」は、昭和42年から日本住宅公団の手により高層住宅が相次いで建設され、都内最大の高層住宅団地に変貌し、昭和7年の板橋区誕生時12万人であった人口は、昭和60年に50万人を超えました。(その間、昭和22年にそれまでの板橋区の総面積の約60%にあたる区南西部が、練馬区として分離されました)

交通機関は昭和58年6月に、従来の東武東上線に、営団有楽町線の池袋~成増間が開通して接続し、また、昭和43年12月に高島平~巣鴨間に開通した地下鉄は、その後、西高島平~三田間に延長され都営三田線となり、都心(丸の内、大手町)への通勤の利便性からマンション建設が進んでいます。

高速道路も首都高速5号線が南北に走り、板橋は、まさに首都東京の北端を担って発展し続けております。

【史跡】

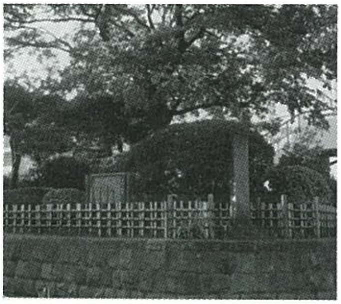
・板橋

旧中山道が石神井川を渡る地点に架けられた橋で、板橋の地名の由来になったと考えられています。

板　橋

・志村一里塚

江戸日本橋から数えて三番目の一里塚で、道の両側に向かい合って築かれています。一里塚が完全な姿で残っているのはまれで、国および板橋区の史跡に指定・登録された文化財です。

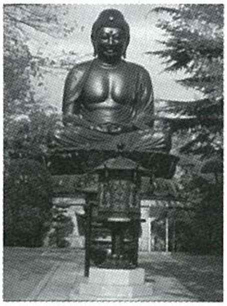


志村一里塚

（当社の乗降駅“志村坂上”のすぐそばです。お立ち寄り下さい）

・東京大仏（乗蓮寺）

乗蓮寺は徳川家康から10石の朱印地を寄進された格式ある寺院です。その境内にある東京大仏は、関東大震災・東京大空襲などの悲惨な震災・戦災が起きないように願いを込めて、昭和52年に建立されました。高さ13メートルの青銅製で重さが22トンあります。



東京大仏（乗蓮寺）

【区の木】

「欅」は古くから武蔵野の雑木林を代表するもので、日本が原産地です。ニレ科の落葉高木で高さ30mに達し、樹幹はまっすぐにのび、ますますの発展を象徴するにふさわしい木です。

欅（ケヤキ）

【区の花】

「二輪草」はキンポウゲ科の多年草で、雑木林などの緑陰に多く見られ、15㎝ほどの草丈に春に白い可憐な花を二輪咲かせます。区では、この花が生育する自然環境を大切に守り育てていきたいと考えています。

二輪草（ニリンソウ）

また、区内の小売酒販組合が区の花を商品名にした日本酒（「二輪草」本醸造、純米酒、大吟醸）を発売し、好評を得ております。

ぜひ、ご試飲下さい。